

いい研究を、いい大学と。

グローバルナレッジパートナーとの連携強化が果たす役割

今号の「濃いっ！阪大」でも触れた「地域に生き世界に伸びる」は、大阪大学の長期ビジョンを表すモットーとして1981年に採用されたものです。このモットーは、当時、大阪大学の目指すべき姿を全学の教員に尋ねた際に、「学際的領域に新しい発展の芽を見出す」または「欠けているものを補う」などのために、「国際化の推進」と「地域社会との交流」を望む声が多く寄せられたことから生まれたフレーズです※。今も昔も、国際化は大学発展のために必要な手段であって目的ではないことが分かります。

では、今、大阪大学はどのように世界と向き合っているのでしょうか？その鍵となるのが「グローバルナレッジパートナーとの連携強化」の取組です。

※出典：「大阪大学学報第328号」



海外の有力大学と共にジャンプアップ！

まず、グローバルナレッジパートナーとは、2017年10月1日時点で121校ある大学間学術交流協定締結校のうち、さらに強固に組織対組織の協働関係を築く有力機関を言います。そして、このパートナーとともに、より高いレベルで教育研究を協力して実施していくことで、大阪大学のグローバル化を推し進め、教育研究活動のさらなる活性化を目指します。

この取組は、これまでに研究者個人、部局の方々をはじめ多くの阪大関係者によって築かれた良好な関係性を基盤にしています。部局単位から大学全体へと展開し、有力大学と互いの強みを活かした連携へとつながっていきます。

世界のハブになる

ここまで読まれて、これまでの大学間での協定と何が違うの？と思われた方もいらっしゃるかと思います。後述しますが、もちろん個々での結び付きも強くなりますが、この取組にはもう一つ大きな特徴があります。それは、複数のグローバルナレッジパー

トナーと広域で緊密な活動を展開することで、大阪大学が有力大学間のハブになることができる点です。新たに構築されたネットワークによって連携が深まり、教育研究環境の一層のグローバル化を促し、大阪大学の世界でのプレゼンスを高めることにつながります。

主体的な活動が有機的な交流を生みだす

連携強化の具体的な手法として、実質的に人材が交流する仕組みを整えます。まず長期的には、クロス・アポイントメント制度による外国人研究者の受入れやジョイントラボの相互設置、短期的には若手研究者の派遣や受入れ、セミナー・ワークショップの開催、研究資金面でも、国内外の大型研究助成への共同申請、そしてこれらの活動とその持続性を支える仕組みづくりを行います。教育の側面でも、ダブル・ディグリー・プログラム、博士後期課程の共同指導(コチュテル)などの制度を整えることで、研究を軸にした学生の交流も促進します。すでに

実績のある部局個々の主体的な活動を、大学として統合的に整え、支えていくことで、あらゆる側面で有機的な交流を生み出すことが可能となります。

部局が活動しやすい仕組みを！

グローバルナレッジパートナーは5～8機関を想定しています。また、部局に対して活動に必要な経費支援を行うなど、グローバルナレッジパートナーとの教育研究交流促進のための様々な施策を検討中です。



上海交通大学と阪大のいい関係

グローバルナレッジパートナー候補の一つが、中国でも古い歴史を持つ総合大学の一つで、理系分野に強みを持つ上海交通大学です。

1994年に、大阪大学と大学間学術交流協定を締結して以来、研究者や学生の交流が盛んです。なかでも、学術交流セミナーは、両大学が交互にホストを務める形で20年以上にわたり継続して行われており、実質的な連携強化の重要な基盤となっています。

9月21日、22日には、第19回目のセミナーが上海交通大学で開催されました。今回は重点的に材料・接合分野、情報分野、物理・レーザー分野の3分野において、教育研究の両面で実のある交流が展開され、博士共同育成の交流計画について実質的な協議や、理学研究科と上海交通大学物理学院とのダブル・ディグリー・プログラム協定の調印など、各分野での活発な交流が行われました。

10月には、接合科学研究所が上海交通大学内にオフィスを開設し、この他にも複数の研究科でダブル・ディグリー・プログラムの締結が予定されているなど、今後も、積極的な交流が見込まれています。

大学間のこうした活動の潤滑油として、林忠钦学長と西尾章治郎総長の会談では、今後は博士人材共同育成の分野を広げ、さらなる具体的な連携強化に向け共に歩んでいくことが確認されました。また、同日開催された西尾総長の「Master Distinguished Lecture」には多くの学生が参加し、質疑応答の時間には質問が相次ぎ活発な議論が行われました。

世界各国の有力大学と協議中！

10月4日には、グローバルナレッジパートナーの候補でもある英国のUniversity College LondonのArthur学長一行と、同日午後にはオランダのUniversity of GroningenのSterken学長も来学され、相互の研究者を交えて具体的な共同研究に関する協議を行いました。今後も世界各国の有力大学との連携の深化に向けた協議は続きます。

	2	3
1	6	
5	7	4

1, 2, 3) 9月に訪中した西尾総長と上海交通大学との交流の様子。
4) 上海交通大学の学生から、西尾総長に贈られた西尾総長フィギュア。忙しく世界中を飛び回る主に代わり、総長室の留守を守る。
5, 6, 7) 10月初旬に来学されたUCL学長一行との協議の様子。

(文責：企画部広報課 監修：国際部国際企画課)
※阪大 AtoZとは、大阪大学のあらゆる物事を様々な角度から紹介する企画です。